

平成 25 年度事業報告

長期間順調な伸びを示してきた国内の補聴器出荷台数も、平成 25 年第 4 四半期は対前年比 98.8%と少し陰りが見えるのかと心配されましたが、年間では 528,789 台、対前年比 1.9%増（日本補聴器工業会のまとめ）と堅調な 1 年でした。また年が明け、平成 26 年第 1 四半期も対前年比 3.4%増と堅実なスタートを切っているようです。アベノミクス効果により経済環境が少しずつ好転してきたと言われてはいますが、私たちは、出荷台数が伸びようとも常に補聴器が難聴の方々にとって生活の必需品であると受けとめていただけるようなフィッティングから手を緩めてはなりません。

私たちの目的は補聴器で行う社会福祉の増進を通して社会の活性化に寄与することにあります。そのためには、補聴器を装用する方々の聞き取り能力に基づいて最適に設定され、それらの方々の QOL（生活の質）の向上が図られなければなりません。そのため昨年 6 月に「販売店における補聴効果の確認法」を制定しました。QOL の向上を確実にするために必要な知識・技能を習得するための教育研修として HHP（Hearing Healthcare Professional）プログラムを策定し、計 4 回開催して大きな成果を上げることができました。これの継続開催で一層適切なフィッティング環境が整っていくものと期待されます。また、補聴器フィッティングには高度な実技技能が求められます。そのため、少人数制の実技研修会も開催いたしました。技能者の皆様にはこれらの研修会を有効にご活用いただき、補聴器装用者の QOL の向上にお役立ていただきたいと思っております。

協会設立時からの目標である「補聴器技能者の公的資格化」については、公益財団法人テクノエイド協会と業界三団体による、「きこえの QOL 促進プロジェクト」の中で、資格化の政策提言を行うための裏付けとなるデータ収集の活動を行っているところです。その活動の一環で多くの高齢者と関わる福祉・介護関連団体と交流し「自立生活支援には聞こえの保証が欠かせません」を訴え、補聴器の正しい理解を図っています。さらに当協会は広報活動として難聴者団体、福祉・介護職の方々への講習会等へ要員を派遣し、「補聴器の供給は、専門技術者による対面販売が絶対条件である」ことを理解してもらうため「フィッティングの重要性」について説明してきました。これらの講習会も年々依頼が多くなってきており、私たちの果たす役割に期待をいただいているものと感じております。

補聴器技能者の業務には女性が活躍できる多くの業務があります。これを踏まえ、一昨年に「女性技能者の活躍できる環境づくり」の女性会議「Je m'appelle」（ジュ・マペール：私の名前は・・・）を発足させ、活動を始めました。一層多くの女性会員から理解され、この目的に賛同される活動になることを願っています。

〔会員構成〕

会員の別	期首	期末	増減
一般会員	7名	8名	1名
資格認定会員	438名	544名	106名
準会員	234名	185名	△49名
賛助会員(法人)	10社	10社	0社
賛助会員(個人)	7名	7名	0名
特別会員	0名	0名	0名
会員合計	696名	754名	58名

〔事業報告〕

○特定非営利活動に係る事業について

平成 25 年度の重点活動目標として次の 4 項目を掲げて活動しました。

1. 補聴器技能者の育成活動（定款第 5 条第 1 項 1 号①）

- ① HHP 研修会を開催しました。
- ② JAPAN 補聴器フォーラム 2013 で「The MiMi Tribune Café」を開催し、補聴器技能者の情報交換の場を提供しました。
- ③ 会誌「The MiMi Tribune」を 4 回発行し、情報提供を行いました。
- ④ 試験対策講座を開催しました。

2. 補聴器技能者の普及啓発活動（定款第 5 条第 1 項 1 号②）

- ① 各地の各種団体が主催する講習会へ講師を派遣し、補聴器の正しい知識と認定補聴器技能者を広報しました。（難聴者団体、介護・福祉関係施設、その他計 11 箇所）
- ② メールマガジン 14 号～19 号を発行し、業界の最新情報を提供しました。
- ③ ホームページで技能者インタビューを追加掲載して認定補聴器技能者の普及に努めました。
- ④ ホームページに、一般の方向けの啓発ページ追加を検討しました。（ユーザー、装用希望者へのアドバイスを掲載予定）
- ⑤ JAPAN 補聴器フォーラム 2013 に参加。技能者同士の交流スペース「The MiMi Tribune Café」の開設やフォーラム内で広報を行いました。

3. 本法人の関連学会・団体との情報交換及び研究等共同事業（定款第 5 条第 1 項 1 号③）

- ① 日本補聴器販売店協会、日本補聴器工業会と当協会の業界 3 団体で合同三役会議を 4 回開催し意見交換を行いました。
- ② テクノエイド協会と業界 3 団体の「きこえの QOL 促進プロジェクト」に参加し、海外データの収集や福祉・介護関係職向けへの補聴器の啓発について検討しました。
- ③ 両耳装用補聴器の供給に関するガイドライン検討会に参加し、日本聴覚医学会 補聴研究会で研究発表を行いました。
- ④ 「販売店における補聴効果の確認法」の普及啓発のため、日本補聴器販売店協会と協力し研修会を実施しました。

4. その他目的を達成するために必要な事業（定款第 5 条第 1 項 1 号④）

- ① 会員名簿を作成し、関係諸団体への送付や催事等で配布しました。
- ② 各種講習会やイベント等での入会募集活動の強化と、入会キャンペーン（3 名以上の同時入会による入会金の減額）により、108 名が新たに入会しました。

○その他の事業（定款第 5 条第 2 項）

実施しておりません。

〔主な活動内容〕

以下に平成 25 年度の主な活動報告を記します。

- 4 月 ○T. M. T. ※第 4 号発行 ○第 21 回理事会 ○合同三役会議
○講師・相談員派遣
- 5 月 ○教育・研修委員会 ○会計監査会 ○広報委員会 ○講師・相談員派遣
○販売店における補聴効果ガイドライン作成 WG ○T. M. T. 第 5 号発行
- 6 月 ○「補聴器の日」ライフスタイルフォーラム参加 ○講師・相談員派遣
○教育・研修委員会 ○「JAPAN 補聴器フォーラム 2013」参加
○第 22 回理事会 ○第 8 回通常総会
- 7 月 ○合同三役会議 ○きこえの QOL 推進プロジェクト ○講師・相談員派遣
○実技研修会 ○HHP 研修会（仙台・東京計 2 回）
- 8 月 ○教育・研修委員会 ○実技研修会 ○きこえの QOL 推進プロジェクト
○三役・委員長会議
- 9 月 ○きこえの QOL 推進プロジェクト ○教育・研修委員会 ○試験対策講座
- 10 月 ○T. M. T. 第 6 号発行 ○講師・相談員派遣（計 2 回） ○合同三役会議
○販売店における補聴効果ガイドライン作成 WG
- 11 月 ○HHP 研修会（神戸・東京計 2 回）○講師・相談員派遣（計 4 回）
- 12 月 ○女性会議 ○きこえの QOL 推進プロジェクト ○第 23 回理事会
- 1 月 ○T. M. T. 第 7 号発行 ○広報委員会 ○関連団体へ挨拶回り
○賀詞交換会出席（福祉用具関係・社会福祉関係計 2 回） ○合同三役会議
- 2 月 ○販売店における補聴器効果ガイドライン作成 WG
○ユニットケア研修フォーラム 2014 へ共同出展
- 3 月 ○講師・相談員派遣（計 2 回） ○きこえの QOL 推進プロジェクト
○三役・委員長会議

※T. M. T. とは会誌「The MiMi Tribune」のことです。

以上、平成 25 年度の事業報告に当たり、会員各位のご協力に感謝申し上げます。

平成25年度決算報告書

平成25年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成26年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
流動資産			
現金預金			
現 金	319,676		
普 通 預 金	1,865,100		
郵 便 貯 金	1,786,692		
未収会費	36,000		
流動資産合計		4,007,468	
資産合計			4,007,468
II 負債の部			
流動負債			
前 受 金	94,000		
流動負債合計		94,000	
負債合計			94,000
III 正味財産の部			
正味財産			3,913,468
(うち当期正味財産増加額)			(188,838)
負債及び正味財産合計			4,007,468

※正味財産には設立登記時の資産66,706円を含む。

平成25年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

自 平成25年4月1日

至 平成26年3月31日

特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額		予 算 - 決 算
I 収入の部				
1 会費・入会金収入				
入会金収入	130,000	133,000		△3,000
会費収入	7,800,000	7,476,500		323,500
	7,930,000		7,609,500	320,500
2 事業収入				
育成事業	3,200,000	2,636,815		563,185
普及啓発事業	50,000	10,000		40,000
	3,250,000		2,646,815	603,185
3 雑収入				
受取利息	500	644		△144
	500		644	△144
収入合計	11,180,500		10,256,959	923,541
II 支出の部				
1 事業費				
育成事業	2,100,000	2,279,016		△179,016
普及啓発事業	1,000,000	757,211		242,789
研究事業	900,000	1,002,773		△102,773
	4,000,000		4,039,000	△39,000
2 管理費				
会議費計	3,200,000	3,202,145		△2,145
理事会費	900,000	593,860		306,140
その他会議費	700,000	1,109,120		△409,120
教育・研修委員会	600,000	799,805		△199,805
広報委員会	500,000	299,860		200,140
総務委員会	500,000	399,500		100,500
総会費	1,000,000	554,257		445,743
旅費交通費	150,000	165,230		△15,230
通信費	300,000	312,305		△12,305
消耗品費	200,000	234,914		△34,914
支払手数料	10,000	8,715		1,285
賃貸料(家賃)	600,000	600,000		0
租税公課	10,000	2,580		7,420
顧問料(税理士他)	30,000	0		30,000
事務委託費	900,000	900,000		0
雑費	10,000	515		9,485
渉外費	50,000	48,460		1,540
	6,460,000		6,029,121	430,879
3 その他資金支出				
雑損失	0	0		0
	0		0	0
支出合計	10,460,000		10,068,121	391,879
当期収支差額	720,500		188,838	531,662
前期繰越収支差額	3,657,924		3,657,924	0
次期繰越収支差額	4,378,424		3,846,762	531,662

※今年度はその他の事業を実施していません。

平成25年度 特定非営利活動に係る事業会計正味財産増減計算書

自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日

特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会
(単位：円)

科 目	金 額		
(増加の部)			
資産増加額			
当期収支差額	188,838	188,838	
負債減少額			
増加額合計			188,838
(減少の部)			
資産減少額			
負債増加額			
減少額合計			0
当期正味財産増加額			188,838
繰越正味財産額			3,724,630
期末正味財産合計額			3,913,468

平成25年度 特定非営利活動に係る事業会計財産目録

平成26年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会
(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
流動資産			
現 金	319,676		
普 通 預 金	1,865,100		
郵 便 貯 金	1,786,692		
技能者協会	1,294,732		
JHITA研修会	491,960		
未 収 会 費	36,000		
流動資産合計		4,007,468	
資産合計			4,007,468
II 負債の部			
流動負債			
前 受 金	94,000		
流動負債合計		94,000	
負債合計			94,000
正味財産			3,913,468

注記 普 通 預 金 みずほ銀行 神田駅前支店 普通預金 2126161
 郵 便 貯 金
 技能者協会 振替貯金 00130-5-631089
 JHITA研修会 振替貯金 00180-1-299580
 未 収 会 費 36,000円(4名分)
 前 受 金 入会金10,000円(1名分), 会費84,000円 (8名分)

以上のとおり報告いたします。

平成26年6月20日

特定非営利活動法人 日本補聴器技能者協会

理事長 阿部 秀実

平成25年度事業報告及び計算書類について

厳正なる監査を行った結果、正確かつ妥当であることを認めます。

平成26年5月14日

監事 田代 實



監事 瀬部 保夫

